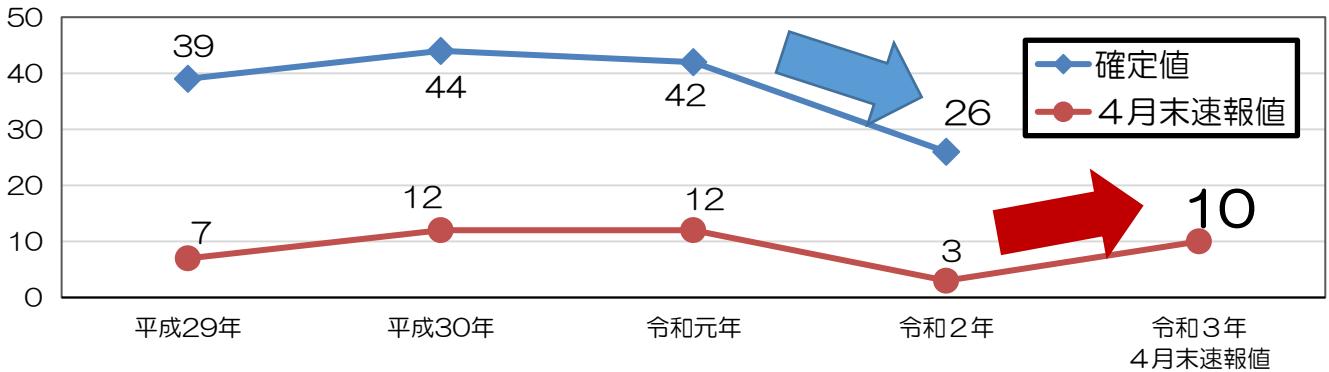


令和2年の建設業における休業4日以上¹の死傷者数は、前年の42人から26人と減少しましたが、令和3年4月末日²現在では、昨年の同時期の3人から10人と大幅に増加しています。

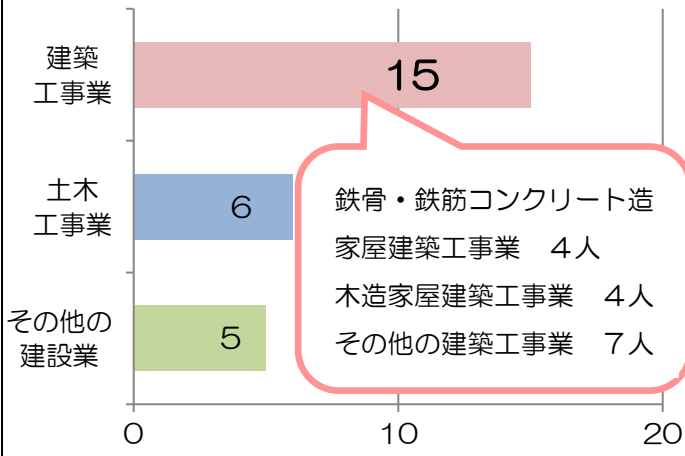
今一度、基本的な作業手順の見直しなど、災害防止に取り組んでください。

図Ⅰ 建設業における労働災害発生状況の推移（平成29年～令和3年4月末日速報値）

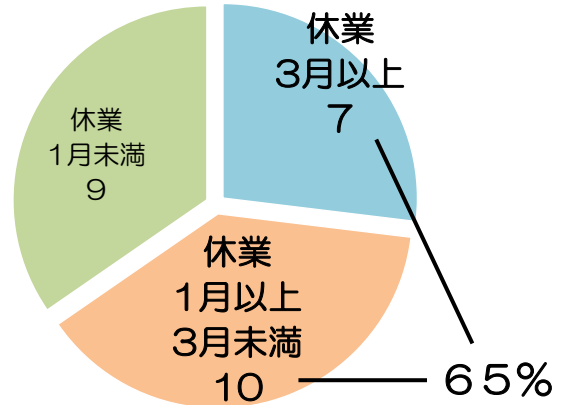


令和2年は、建設業の中でも、建築工事業で15人と、最も多くの労働災害が発生しました（図Ⅱ）。また、休業1か月以上の重傷を負った方が65%であり、大きな災害に繋がりがやすい傾向があります（図Ⅲ）。

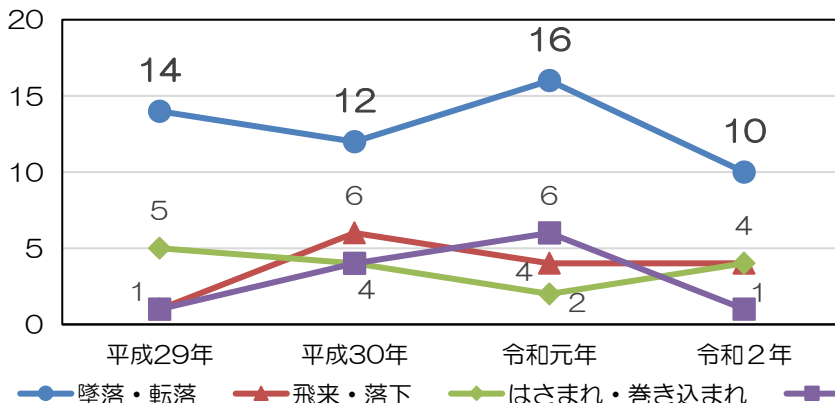
図Ⅱ 令和2年建設業工種別内訳



図Ⅲ 令和2年建設業災害被災程度別内訳



図Ⅳ 建設業における主な事故型別




👉 墜落災害が最多

建設業での労働災害は、「墜落・転落」災害が多く、毎年30%前後を「墜落・転落」災害が占めています。令和2年の墜落場所は、「はしご等」が6件と最も多く、次いで「屋根」等が2件と続きました。

「墜落・転落」災害の対策を中心に、安全衛生活動を推進してください。

墜落・転落対策 チェックリスト

はしご	脚立
<input type="checkbox"/> はしごの上部・下部の固定状況を確認している	<input type="checkbox"/> 脚立は安定した場所に設置している
<input type="checkbox"/> (はしごをボルトで取付けている場合) ボルトが緩んだり腐食したりしていない	<input type="checkbox"/> 開き止めに確実にロックをかけた
<input type="checkbox"/> はしごの上端を、上端床から 60 cm以上突出している	<input type="checkbox"/> ねじ、ピンの緩み、脱落、踏みさんの明らかな傷みはない
<input type="checkbox"/> はしごの立て掛け角度は、75 度程度となっている	<input type="checkbox"/> ヘルメットを着用し、あごひもをしめている
<input type="checkbox"/> はしごの踏みさんに、明らかな傷みはない	<input type="checkbox"/> 靴は脱げにくく、滑りにくいものを履いている
<input type="checkbox"/> はしごの足元に、滑り止め(転位防止措置)がある	<input type="checkbox"/> 身体を天板や踏みさんに当て、身体を安定させる
<input type="checkbox"/> 靴は脱げにくく、滑りにくい	<input type="checkbox"/> 天板上や天板をまたいで作業をしない
<input type="checkbox"/> ヘルメットを着用し、あごひもを締めている	<input type="checkbox"/> 作業は2段目以下の踏みさんを使用する(3段目以下がよりよい)
リーフレット「はしごを使う前 ／脚立を使う前」はこちら → 	<input type="checkbox"/> 作業は頭の真上でしない
	<input type="checkbox"/> 荷物を持って昇降しない


👉 高齢労働者に配慮したエイジフレンドリーな職場を目指しましょう!

建設業での労働災害は、60代以上の被災者が最も多く、50代の被災者と合わせると、

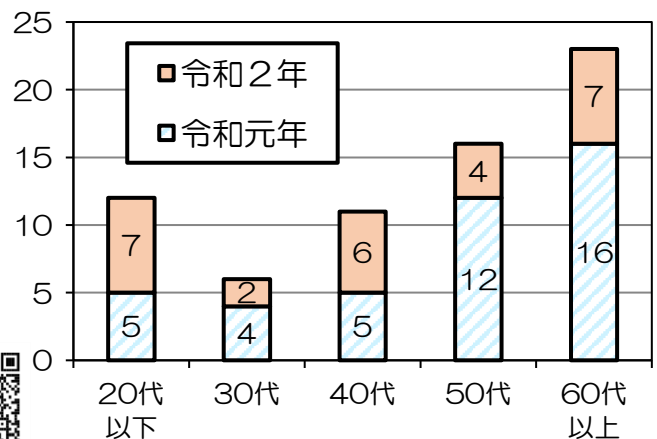
全体の57%

を占めています(図V)。このうち、最も多いのは「墜落・転落」災害で、16件(41%)発生しています。墜落場所は、脚立を含む「はしご等」と「屋根、はり、もや、けた、合掌」がともに4件と最も多くなりました。

加齢に伴う身体・精神機能の低下を踏まえて、安全衛生対策を実施していくことが重要です。

パンフレット「～働く高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場づくりを進めましょう～」はこちら → 

図V 建設業災害年齢別内訳(令和元年～2年)



令和2年死亡災害発生状況(三重県 建設業)

発生日	業種	被災者		事故の型	事故の概要
		職種	年齢(年代)		
1月	その他の建設業	検査工	50代	墜落・転落	被災者は、ダクト工事のために訪れた工場において、設置された作業ステージ上で下見作業をしていたが、ステージの柵を乗り越えL型鋼に掛け渡されていた石膏ボードに乗ったところ、石膏ボードが割れ、約4m下の地上に墜落した。
3月	その他の建設業	とび工	10代	墜落・転落	被災者は、水管橋歩廊上にて足場解体後の資材を一輪車にて運搬作業中、前方で別の一輪車を押していた作業者が停止していたため、追い越そうと歩廊の手すりを乗り越えて、歩廊外にある水管橋の横桁を移動しようとしたところ、バランスを崩し、約1.3m下の地上に墜落した。
5月	その他の建設業	機械修理工	60代	はさまれ・巻き込まれ	被災者は、製氷設備の修理作業中、貯氷庫のゲートが開いたままで停止した原因を調べるために、ゲート付近に溜まっていた水を竹棒でたいて除去していたところ、ゲートが動き、柱との間に挟まれた。
5月	その他の建設業	管理者	40代	有害物等との接触	被災者は、窒素パーシされていたタンクの上部のマンホールを開放し、縄梯子を使用して、タンク内に入曹した直後、仰向けに倒れた。
10月	その他の土木工事業	型枠大工	60代	墜落・転落	被災者は、床上操作式クレーンを用いて、倉庫1階から2階に型枠を片付ける作業中、2階床面にある開口部から3.67メートル下の1階床面に墜落した。
11月	その他の建設業	作業員	50代	墜落・転落	被災者は、トラックの運転席の上部において、屋根材の荷上げ作業をしていたところ、1.9メートル下の地上に墜落した。
12月	橋梁建設工事業	作業員	20代	はさまれ・巻き込まれ	被災者は、パイルオーガに部品を取り付けていたところ、運転者がパイルオーガのチャック部分を回転させたため、被災者の頭部がパイルオーガのチャック部分とシリンダー部の間に挟まれた。